



## 離島教育における体験的活動のこれまでとこれから

著者	日? 孝
雑誌名	地域総合研究
巻	45
号	2
ページ	121-133
発行年	2018-03-15
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1654/00000943/">http://id.nii.ac.jp/1654/00000943/</a>

# 離島教育における体験的活動のこれまでとこれから

日高 孝\*

## 1 はじめに

「港で全小中学生と職員に見送られ船で別れる時、涙があふれてしかたがなかった。」

「見てください。別れ際にいただいた手づくりの横断幕です。子どもたちからのプレゼントですよ。」

5泊6日の三島村教育現場体験から帰ってきた学生の第一声である。

出発時の緊張感はどこにも感じられない。どの顔も充実感と達成感にあふれている。未知なる世界に自ら希望して飛び込み、その地での生活を体験した者にしか得られない心と体の財産が確かにつくられたようだ。

では、離島の多い鹿児島県ならではの貴重な教育現場体験はどのようにして本学の教育活動に位置付けられたのか、その経緯と歴史を振り返り、現在の体験活動のメリット、デメリットを学生の声を基に省察しながら、今後の体験活動のよりよき充実のためにその在り方をレポートしたい。

## 2 三島村教育現場体験活動の誕生

三島村では、平成21年度に内閣府の助成を受けた「三島村元気再生事業」を発足させ、島外の「人・物・事」との積極的な交流を図りながら、村の活性化を図る取組を始めた。その後、助成の終了後も村としては、事業を「三島村立小中学校における教育現場体験」として以下の趣旨とねらいで発展的に継続することにした。

### (1) 三島村立小中学校における教育現場体験実施の趣旨

三島村では、大学との提携により三つの島を学外キャンパスとして位置付け、ゼミやサークル活動、教育現場体験実習等学外研修の場として活用することで、感性豊かな学生から有人離島としての存続をかけている三島村活性化のための方策提言を期待している。そこで、これまで「三島村元気再生事業」で受け入れてきた鹿児島国際大学の教職課程履修学生が、児童生徒とのふれあいの中でそれぞれの専門性を生かした指導や若い力と明るく誠実な姿勢で、子どもたちはもちろん教職員にも元気を与えてくれていることから、「教育現場体験」を村内キャンパスの一つとして実施する。

---

キーワード：三島3島（竹島、硫黄島、黒島）現場体験、地域ぐるみの交流、少人数教育のよさと課題、鹿児島県の離島教育の公平分担

---

\*鹿児島国際大学実習支援課課長

## (2) 三島村立小中学校における教育現場体験実施のねらい

本事業は、三島村・三島村教育委員会が提携して鹿児島国際大学の教職課程履修学生を村の公立学校に受け入れ、離島における教育及び生活体験・交流体験を通して三島村の教育課題の解決等に資する活動を展開してもらい「元気みしま村」の具現化を図るものである。

ア 学生と児童生徒のふれあい・交流を通して、児童生徒一人一人が自分の学習・生活面についての自己評価をするとともに、所属感・自己有用感を認識する機会とする。

イ しおかぜ留学にあつては、学生との語らいを通して、自分の進路について考える機会とするとともに、それぞれの目標に適した新たな行動目標を設定させ、日常の実践に向けた意欲の醸成を図る。

ウ 学生とのふれあいを通して、児童生徒に自分育ての目標を明らかにさせ、自分にできる夢育てを支援する機会とする。

エ 離島・へき地で極小規模校の小・中併設校である三島村の学校の教職員・保護者・村民との出会い・ふれあい・学び合いを通して「三島ならではの教育」「三島らしさの教育」を体感することで、今後、本県の教育に携わる意識を高めるとともに学生としての資質向上の一助とする。

オ 外海孤島という厳しい条件を負いながらかけがえのない碧い海、緑の山々を守り、自然の恵みを大切におもてなしの心を忘れない温かい村人に囲まれ、子どもたちが健やかに育っている三島村のサポーターになってもらいたいという願いに応えられる人になることを期待する。

カ 「家族を愛し、郷土を愛し、人を愛する」村の大人が、島を訪れる人々の心をどれだけ穏やかに豊かにしてくれているか、小さな村だからこそ生きていく上で大切にしてくれていることを、人の関係において、入り交じる心を互いに一つの方向へと導く心の作法「察する」ことの大切さを実体験する。

上記のような経緯や趣旨、ねらいを踏まえて、平成21年度の「三島村元気再生事業」から数えて今年度で9回目の体験・交流を実施してきたことになる。

## 3 教育現場体験の歴史

### 第一回教育現場体験報告から

三島村の平成21年度の元気再生事業（三島村「知ろう・行こう」大作戦）によって、鹿児島国際大学・鹿児島国際大学短期大学の学生4人が三島村の4つの小中学校にて、教育現場体験を行った。

- 竹島小中学校（女子学生）（国際文化学部人間文化学科3年） 9月5日～11日
- 三島小中学校（女子学生）（国際文化学部人間文化学科3年） 9月5日～11日
- 大里小中学校（男子学生）（短期大学部音楽科研究生） 9月5日～11日
- 片泊小中学校（女子学生）（短期大学部専攻科2年） 9月10日～16日

報告書からは、4人のどの学生も貴重な体験で、離島・小規模・へき地校ならではの学びと三島村の方々への感謝がうかがい知れる。

当時引率された松原武実教授は、前語りに次のように述べられている。

鹿児島県は多くの離島僻地を抱えている。教職に採用されると正採用・臨時採用問わず、直ちに離島や僻地への赴任を命じられるケースも少なくない。しかしながら大学で学ぶ教職課程の中に教育実習はあっても、離島や僻地での実習や体験はない。

当然ながら極小規模校や小中併設校での教育の在り方は通常校とは違っている。離島においてはなおさらである。ハンディを克服するために、教職員は地域と一体となって教育を実践していかなければならない。そこにはさまざまな工夫と努力があるはずである。そのことを体験することで、大学の

講義や都会の学校での実習からは得られない、ある意味で教育の根幹にも関わる問題に触れることができるのではないかと。そういう思いを強くお持ちの三島村江口教育長のお考えが今回の事業の原動力となった。

学生たちのレポートから、彼らにとっては言葉に言い尽くせない感動の体験であったことが伝わってくる。小さな島での1週間の新鮮な生活体験というだけでなく、教育のさまざまな問題、小さな離島だからこそ見えてくる現代社会や教育の問題を感じ取っている。離島の小規模校での体験や実習が重要であることも、大学側として改めて認識した。

本年度の元気再生事業の中に組み入れていただいた三島村役場に心から感謝し、学生を受け入れていただいた4つの小中学校の教職員と地域の皆様へお礼を申し上げます。

三島村活性化を目的とする三島村発の事業の提案に、本学が協力する形でスタートしているが、事業の成果として本学の学生の学びの充実に資する面が多かったように推察される。それが、9年間も続いてきた一つの理由でもあろう。

## (2) これまでの三島村教育現場体験の実績

体験年度	体験先	学科・学年等	体験期間
平成21年度	竹島小中学校	人間文化学科・3年・女	9月5日～11日
	三島小中学校	人間文化学科・3年・女	9月5日～11日
	大里小中学校	短期大学部音楽科・研究生・男	9月5日～11日
	片泊小中学校	短期大学部専攻科・2年・女	9月5日～11日
平成22年度	竹島小中学校	人間文化学科・3年・女	9月4日～10日
	三島小中学校	経営学科・3年・女	9月4日～10日
	大里小中学校	言語コミュニケーション学科・4年・男	9月4日～10日
	片泊小中学校	短期大学部音楽科・2年・男	9月4日～10日
平成23年度	竹島小中学校	言語コミュニケーション学科・4年・女	9月1日～7日
	三島小中学校	言語コミュニケーション学科・3年・男	9月1日～7日
	大里小中学校	経済学科・3年・男	9月1日～7日
	片泊小中学校	人間文化学科・4年・女	9月1日～7日
平成24年度	竹島小中学校	児童学科・3年・男	9月1日～7日
	三島小中学校	言語コミュニケーション学科・4年・女	9月1日～7日
	大里小中学校	人間文化学科・4年・女	9月1日～7日
	片泊小中学校	現代社会学科・4年・男	9月1日～7日
平成25年度	竹島小中学校	児童学科・3年・男	9月5日～11日
	三島小中学校	社会福祉学科・4年・女	9月5日～11日
	大里小中学校	音楽学科・4年・女	9月5日～11日
	片泊小中学校	経営学科・3年・女	9月5日～11日
平成26年度	竹島小中学校	児童学科・3年・女	9月4日～11日
	三島小中学校	音楽学科・4年・女	9月4日～11日
	大里小中学校	児童学科・3年・男	9月4日～11日
	片泊小中学校	児童学科・3年・男	9月4日～11日
平成27年度	竹島小中学校	児童学科・3年・男	9月3日～6日
	竹島小中学校	国際文化学科・3年・女	9月3日～10日
	大里小中学校	経営学科・3年・女	9月3日～10日
	三島小中学校	経営学科・3年・女	9月3日～10日
平成28年度	竹島小中学校	児童学科・3年・男	9月3日～8日
	三島小中学校	音楽学科・3年・女	9月3日～8日
	大里小中学校	児童学科・3年・男	9月3日～8日
	片泊小中学校	経営学科・4年・女	9月3日～8日
平成29年度	竹島小中学校	児童学科・3年・女	9月5日～10日
	三島小中学校	国際文化学科・3年・女	9月5日～10日
	大里小中学校	経営学科・4年・男	9月5日～10日
	片泊小中学校	児童学科・3年・男	9月5日～10日

\* 総括

- ア 体験回数9回, 男子学生15名, 女子学生21名, 計36名が参加している。
- イ 参加学部・学科等は多岐に渡るが児童学科の10人が最多である。
- ウ 期間については, 受け入れ先の学校の事情や, 定期船のドック入りの関係から7泊8日から5泊6日の間で設定されてきたが, ここ2年間は5泊6日となっている。
- エ 台風等の気象障害や体験中の病気等にも, 三島村教育委員会と緊密に連携しながら臨機応変に対応し, 大きな事故等は起きていない。(平成27年度に, 熱発のため4日間で中断した事例がある。)
- オ 体験に係る予算等については, 三島村教育委員会と協議の上決定している(内閣府の助成が終了したため)。学生の総負担は, 食費中心で4千円程度になる。

(3) 平成29年度の教育現場体験の実際

- ア 平成28年度中に三島村教育委員会と協議し, 平成29年度の教育現場体験の実施について協議を行い, 実施要項を確認する。
- イ 希望者の募集は下記要項にて行う。

平成29年度 三島村立小中学校における  
教育現場体験希望者募集について

平成29年5月11日

本学では, 三島村・三島村教育委員会との連携により, 教職課程履修学生を村の三島村の公立学校で受け入れ, 離島における教育及び生活体験・交流等を行う教育現場体験を実施しています。体験希望者は, 実習支援課カウンターにある募集要項・志願書を受け取り, 期限までに志願書を提出してください。体験実施者については, 提出書類をもとに選考を行い, 決定いたします。

詳細については, 実習支援課へお尋ねください。

- 1 体験の期間 平成29年9月5日(火)～9月10日(日)5泊6日  
※調整のうえ, 変更される場合があります。
- 2 場所(実施校) 竹島(竹島小・中学校) 硫黄島(三島小・中学校)  
黒島(大里小・中学校, 片泊小・中学校)
- 3 募集人員 各学校1名ずつ 計4名
- 4 参加資格 学部生・・・3年生及び4年生で教職課程履修者
- 5 申込方法  
(1) 提出書類: 教育現場体験志願書(実習支援課備え付け)  
(2) 志願書提出先: 実習支援課  
(3) 提出期限: 平成29年6月21日(水)16:00まで(締切厳守)
- 6 選考方法 提出書類をもとに教育課程・教育実習委員会で選考し, 結果は7月14日(金)に「資格・実習」掲示板にて発表します。
- 7 経費(予定) 学生負担総計 4,000円程度
- 8 その他  
(1) 体験を行う学生には, 事前のオリエンテーションを実施します。  
(2) 体験終了後はレポートの提出と「教育現場体験」報告会を11月頃に予定しています。  
★ この現場体験のねらいについては詳細を実習支援課で確認できます。  
★ 不明な点があれば, 実習支援課に問い合わせてください。
- ウ 体験者の選考は, 応募者についての総合的な評価を基に教職課程・教育実習委員会で行い, 体験者

4名と次点者を1名選び、4小学校への配置は三島村教育委員会で行う。

エ 体験までの主なスケジュール

期 日	主な行事等	体験者の動きや準備等
7月14日	教育現場体験者の決定と三島村への連絡	・決定通知を受け今後のスケジュールの確認 ・配属離島の調査・研究，研究大会挨拶の準備等
8月10日	三島村教育研究大会への参加，紹介 ・教育長講話 ・配属各学校長等との面談	・全教職員が出席する三島村教育研究大会での自己紹介 ・教育講話，学校長面談での応答等
8月24日	三島村教育現場体験事前研修会 ・前年度参加者からのレクチャー	・参加までの準備と心構え ・体調管理と体験報告会までの見通し
9月2日 ～7日	・三島村立小中学校での教育現場体験 ・島民との交流	・各学校での体験と記録 ・学校外活動への参加
10月中旬	・三島村立小中学校教育現場体験報告リ ハーサル	・資料作成と発表原稿等の確認 ・プレゼンテーションの機器等の操作確認
10月25日	・三島村立小中学校教育現場体験報告会 (一人10分程度)	・映像等を活用した分かりやすい説明，報告 ・後輩への意欲付けと三島村への謝意

オ 三島村教育現場体験事前研修会での学び

日程

1 開会の言葉・日程説明

2 開会の教育長挨拶

3 事業内容の説明

4 前年度体験者の講話，質疑応答

5 連絡と閉会の言葉

・ 教育長講話は，常に三島ならではの教育の必要性，重要性について触れながら教育の可能性と教師としての心構えについて熱く話をされて学生は感銘を受けている。

・ 事業内容の説明では，事業への児童生徒や学校，島民の思いとそれぞれの学校の特色等が説明され，三島村への理解と学生の意欲を喚起している。

・ 前年度体験者の講話では，今でも続く体験時の感動や学校での生活，事前準備の必要性が体験者としての言葉で語られ，大変説得力がある。質疑も学生の不安を解消するためにも効果がある。

・ その他として次の事が確認された。

① 事前に体験内容等について学校と打ち合わせを行うこと。

② 教育現場では先生と見なされるのでそれにふさわしい服装をし，行動をとること。

③ 現場では校長先生をはじめ教職員の方々の指示に従い，地域住民とも積極的に交流すること。

④ 持参するものは「研修のしおり」を参照すること。(以下は必需品)

・ 洗面具など一式，常備薬，保険証，運動のできる服装，仕事のできる服装，軍手など

カ いざ三島村へ

○ 9月2日：早朝8時30分～出発式



〈 笑顔と緊張の鹿児島港での出発式 〉



〈 風に恵まれて出港 〉



〈 島での出会い 〉

## キ それぞれの島での生活

9月5日（火） 1日目（硫黄島での初日）

## 【1日の流れ】

時間	内容
8：30	みしまフェリー乗り場集合
9：15	出発式
9：30	出港
12：45	昼食
13：25	硫黄島入港
13：50	民宿着
14：10	学校に向かう（民宿から徒歩1分）
14：40	学校内の施設見学
15：30～16：00	校長先生の講話（学校紹介、日程説明等）
16：20～16：45	図書室見学
16：50	退勤
16：50	一旦民宿に戻り、ジャージに着替える
17：00～18：30	ジャンベスクール（敬老会に向けての練習）
18：40	民宿着、夕食
21：00	1日のまとめ

## 9：30 鹿児島港出港

台風が出来かけており、その影響で朝から小雨が降っていた。

風も強かったため、船が予想以上に揺れた。

竹島で1人を見送った時に「いよいよ5泊6日の教育現場体験が始まった」と感じた。

## 13：25 硫黄島入港

硫黄島が近づくとつれ、海が赤褐色に変わっていった。

硫黄島ではジャンベの演奏で出迎えていただいた。

港に到着した際、荷物を受け取るために大勢の住民が来ていた。

フェリーが重要なライフラインであることが分かり、早速島での生活の特徴を見ることが出来た。

## 13：50 民宿着

初めての民宿。とても楽しみにしていた。

## 14：40 学校着

教頭先生に校内の施設を案内していただいた。

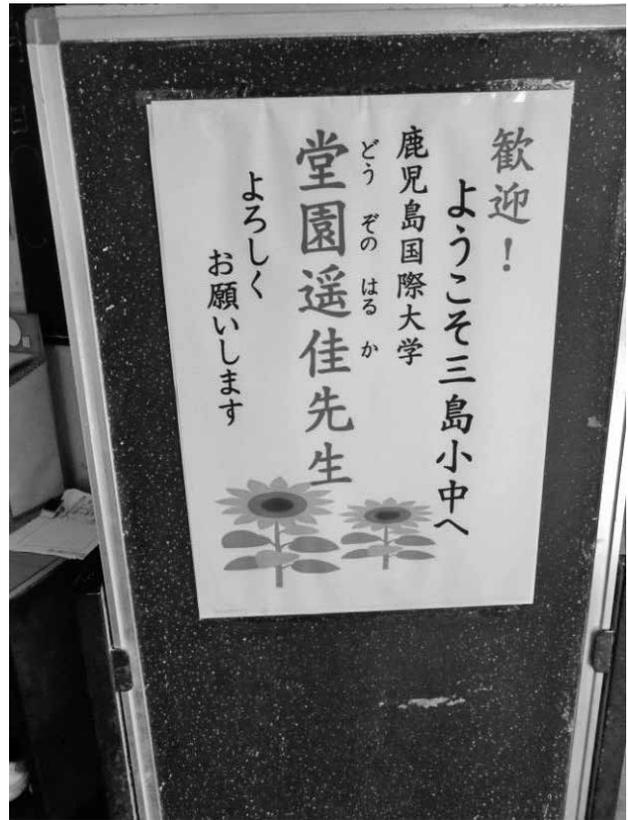
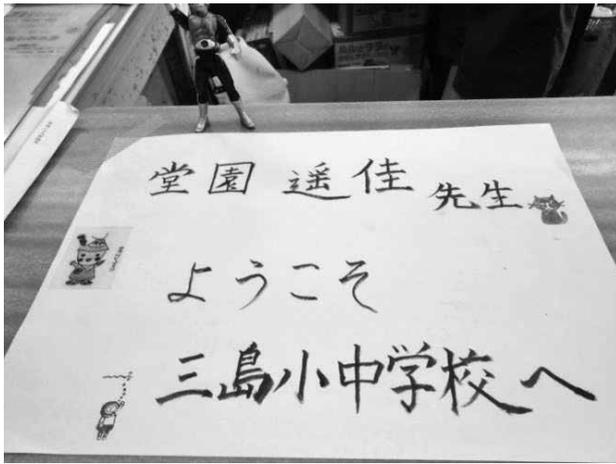
また校長先生からの講話で、生徒には特に挨拶と時間厳守を徹底し、そしてジャンベやカルデラなど硫黄島ならではの特色も授業に取り入れていると伺った。

明日から実際に授業風景を見るので、その点に注目して参観したい。

学校は広かった。先生方が温かく迎えて下さった。



民宿「ガジュマル」



校舎の入り口で見かけた孔雀

17:00 ジャンベスクール

生徒達が敬老会に向けての練習を行っていた。

中学生が小学生をリードしていた。私も到着早々、見様見真似でジャンベを演奏した。

朝から初めてづくしの1日だった。

明日からいよいよ実際の学校現場を参観、体験する。

全てが未知だが、多くの気付きや学びをし、吸収したい。

9月6日（水）2日目（黒島での初日）

時間	内容
7：40	出勤
8：10	朝活動（縄跳び）
8：15	対面式
8：25	朝の会（5，6年）
8：45～10：25	1，2校時 離島体験Ⅰ「神社清掃」
10：40～11：25	3校時（1，2年）生活
11：35～12：20	4校時（1，2年）生活
12：20～13：00	給食（1，2，5，6年）
13：45～14：00	清掃（5，6年）
14：05～14：50	5校時（3，4年）書写
15：00～15：45	6校時（3，4年）書写・実習記録
15：45～16：00	帰りの会
16：15～17：00	ジャンベ教室
17：30	退勤
18：00	入浴・夕飯（クロダイの刺身）
19：30	1日のまとめ・明日の準備

## 〔朝活動〕

チャレンジ鹿児島という体力アップのための取り組みに向けて小学生は縄跳びをしていた。子どもたちの縄跳びはレベルが高く、子どもたち曰く、2年時に2重跳びに挑戦、3年時には習得するらしい。6年生では二重とびやはやぶさを当たり前のように跳んでいた。

## 〔1，2校時 離島体験Ⅰ「神社清掃」〕

9月11日の菅尾神社祭りに向け離島体験として神社清掃に授業で参加した。中学生がグループをまとめ自分達で考えて取り組んでいた。学校と地域の連携や貢献，中学生から小学生へ伝えていく姿が見られ地域との親密性や小中併設の特徴を早くも感じる事が出来た。

## 〔3，4校時（1，2年）生活〕〔5，6校時（3，4年）書写〕

低学年と中学年の複式学級での授業を参観させてもらい、一つの学年の子ども同士で教え合う、教わったことを確認し合う間にもう片方の学年に説明をする等、複式学級での授業の進め方を実際に見ることができ勉強になった。また、一人一人の問いかけに反応できる点や、必要であれば島の自然を活用できる点といった、少人数教育・離島教育ならではの部分が見られていいなと思った。

## 〔ジャンベ教室〕

三島村では硫黄島のほうにジャンベ留学制度があるくらいジャンベというアフリカの太鼓の様な楽器が盛んで、ここ片泊小中学校でも1年生から中学3年生まで11月頭の文化祭に向けて「ヤンカディ マクル」という曲の練習に取り組んでいた。

アフリカさが感じられる速いテンポと軽快なリズム、豪快な演奏に心を奪われ、踊りだしたくなった。

非常に一日が濃く、片泊小中学校が好きになった一日だった。

ク そして別れ



ケ 帰港（思い出とともに）



(解散式)



(4) 平成29年度三島村教育現場体験報告会

- |   |     |   |
|---|-----|---|
| 1 | 日時  | 平成29年10月25日(水) 16:20～17:50                |
| 2 | 場所  | 鹿児島国際大学 8号館 8330教室                        |
| 3 | 参加者 | 鹿児島国際大学学生 2・3・4年生の学生、教職員及び三島村教育委員会、三島村教頭会 |
| 4 | 日程  |   |
|   | (1) | 来賓・発表者の紹介                                 |
|   | (2) | 三島村教育現場体験者の報告                             |
|   | (3) | 三島村立小・中学校の教頭先生の話                          |
|   | (4) | 質疑応答                                      |
|   | (5) | 江口 英雄教育長の講話                               |

(5) 平成29年度三島村教育現場体験報告会の感想

報告会は、4人の体験者の貴重な体験発表の場であると共に他の学生の疑似体験の場となり、次年度参加への意欲を高めることもねらいとしている。そこで、報告会には、下野浩二教授担当の授業である「鹿児島の教育」の一環として104名の学生の参加を得て、以下のような感想も寄せられた。

### 【体験談を聞いて】

- ・ 4人の体験発表を聞いて、彼ら自身の成長と教育者となる上での熱い思いにつながったと感じた。
- ・ 発表を聞いて鹿児島県ならではの教育について知る良い機会になった。直接体験が素晴らしい。
- ・ 授業風景を聞いて、先生たちと子どもたちの距離が近く学校全体が仲が良いと感じた。
- ・ 「教師になりたい。」という先輩方の力強いプレゼンテーションに心から感動した。夢に向かって頑張る姿は、キラキラしていてかっこよかった。
- ・ 鹿児島県の教師を目指している自分が、離島教育や複式学級での教育に無知であることを知った。今回の報告会をきっかけにして、色々な教育現場を見る機会を増やしたいと思った。
- ・ 報告がどれも楽しそうで、三島での経験がとても充実した良いものだったのだろうと感じた。
- ・ 常に向上心をもち続ける努力や精神力を今の内から育てていかなければならないと思った。
- ・ 先輩方がうらやましく、機会があれば三島村での体験に行きたいと思った。
- ・ 「しおかぜ留学」の存在を知り、学校を存続させるための努力と親元を離れて学ぶ姿勢に驚いた。
- ・ それぞれの島の特色を生かした教育が行われていることに驚いた。発表を聞いて離島教育のイメージが大きく変わった。
- ・ 子どもたちのために、こんなにも一生懸命になれる環境が素敵だと思った。私も参加して多角的に観察し学びを深めたいと思った。
- ・ 発表に参加できなかったが、いただいた資料から先輩方の「行ってよかった。楽しかった。」という思いが伝わってきた。私もたくさんの経験を積もうと思った。
- ・ 報告はどれも内容の濃いもので、聞いてよかったと心から思えるととても充実した時間だった。
- ・ 4人の方の発表は、全員が楽しそうで且つ自信に満ち溢れていてかっこよかった。
- ・ 4人全員がしっかりとした目標をもち、自らのスキルアップに向けて意欲的に活動されている姿を見て見習いたいと強く感じた。
- ・ 店もない小さな島での学校という存在の大きさを改めて感じ、鹿児島の教育者として大切なことを学べた気がする。
- ・ 今回の報告会で不安の種であった「離島教育」の良さを知ることでき、鹿児島の教員になって離島教育を体験してみたいと思うようになった。
- ・ 来年は絶対に三島村教育現場体験に参加する。

### 【教育長、教頭講話を聞いて】

- ・ 教育長の澁漣とした講話に、心の若さが子どもたちとの距離を縮めるのだと感じた。
- ・ 教頭先生の「教育者たるもの知識もさることながら、人間力も鍛えなければならない」という言葉を胸に刻んでおきたい。
- ・ 「明るさ・コミュニケーション力・気力」の3つを磨いていい大人になりたい。
- ・ 教育長の熱い想いを聞くことで、自分の夢が見えてきた気がした。
- ・ 離島での楽しさだけでなく、台風の怖さや不便さ、大変さも教えていただき勉強になった。児童生徒、先生、地域の方々との関わり方が素晴らしく、今後も受け継ぐべき在り方だと感じた。
- ・ 「身近に親が当たり前にいる環境に甘えているのではないか。」という問いに胸が痛くなった。感謝と孝行の気持ちをもち続けたい。
- ・ 「教師になることは誰でもできるが、恩師になることは努力しなければできない。」という言葉を見て教師になることが目標でなく、そこがスタートラインなのだと感じた。
- ・ 貴重な講話を聞いて、胸に強い意志をもって将来の目標に向かって努力していきたいと思い、来年この教育体験に参加したいと感じた。

- ・「子どもたちのためにまず汗をかき、その後知恵を出せる」ような教育をしていきたい。
- ・縦割り活動や合同授業、複式指導など極小規模校ならではの教育の在り方を知った。
- ・鹿児島県は複式学級の数が全国1だと知り驚いた。複式指導についてもっと知りたい。
- ・少人数学校は離島だけでなく、どこにでもあることが分かったのでもっとしっかり勉強したい。
- ・教育長の講話にあった教師に必要な資質は「明るさ・向上心・情熱」ということをめざし、大学生のうちのできることを悔いなくこなせるよう、計画を立てて学びを深めていこうと思う。
- ・「家庭で育ち、学校で学び、地域で伸ばす。」という教育長の言葉が、一番心に残った。

#### 4 離島教育における体験的活動の進展をめざして

「来年ぜひ参加したいけれど、この時期に実習があるので少し悲しくなった。」

報告会に参加した、ある2年生の感想である。本学で教職課程を履修する3年生や4年生は、9月期に幼稚園教育実習や保育実習、図書館インターンシップ、福祉関係の実習など様々な現場での体験がある。それはどれも免許や資格を取得するために課せられたもので、目的や内容、方法において三島村教育現場体験にある自由度や主体性は、やや制限されてくる。二兎は得られない状況の中で、学生の感想からは、この三島村での体験活動への期待が溢れている。また、鹿児島県の全小中学校の4割近くは、離島やへき地校に在り、離島へき地での実習や現場体験は、県全体の教育の質を保證する面からも大変重要であると考えられる。

それでは、今後どのようにこの三島村教育現場体験のような活動を拡大し進展させていけばよいだろうか。

##### (1) 受け入れ離島の開拓と拡大

包括的連携協力を進めている地域等との協議を進める。

##### (2) 実施学年や実施時期の拡大

学生が参加しやすい環境を整える。

##### (3) 教育現場体験の単位化と学びの深化

現在、平成31年度の教職課程の再課程認定の申請に伴い、この三島村教育現場体験を全学的に「大学が独自に設定する科目」の一つとして位置付けられないかを検討しているところである。鹿児島県が置かれている教育環境の状況や本学の独自性を活かして、さらに離島教育における体験的活動の充実、進展をめざして行きたいものである。

#### 5 おわりに

鹿児島県は南北600キロメートルの中に26の有人離島を有する特色がある。文部科学省は、近年の児童生徒数減少を受けて公立小中学校の適正規模を示し、全国的に学校の統廃合が進んでいるが、離島では簡単には統廃合はできない。離島教育やへき地校での教育の充実、鹿児島県にとって喫緊のそして長期的な課題である。

その課題に応じて教育を支える教職員の質をどう高め、教育界の発展に寄与していくか、複数の教職課程を設置し数多の有為な教職員を輩出してきた本学の大きな課題であると考えられる。

さらに、多面的、多角的に離島教育の充実策を探りながら研究を進めていきたい。

## 引用, 参考文献

1. 「平成29年度三島村立小中学校における教育現場体験実施要項」 三島村教育委員会作成
2. 「平成29年度三島村教育現場体験報告書」 鹿児島国際大学実習支援課作成
3. 「平成29年度三島村教育現場体験報告感想文」 下野浩二教授のまとめ